

27号 協働の活動づくりへの模索・I

やどかりの里での25年の歩みを総括し、展望を描く
自分づくり、仕事づくりは目の前の人から
出会いと学びを重ねながら

精神障害者の福祉活動が公的に認知されていなかった精神衛生法の時代、1978(昭和53)年に、地域で生きる精神障害者を支える活動を行うやどかりの里に入職した1人の若者がいた。ソーシャルワーカー、のち編集者として活動する中で、出会う人々の生きざまに心打たれ、向き合い、自らを問われ、時に格闘しながら学び、1歩1歩人間として、職業人として成長してきた。また、さまざまな活動に出会うことによって、目の前の1人から活動、地域、さらに社会を見る視点を育ててきた。そして、仲間たちと苦楽をともにし続けて、今、関わる1人1人が主体的に参加し、協働して活動を作っていくことこそが、社会の状況を変えていく力につながると考えている。

走り続ける1人の実践者が、25年間の歩みを総括する中から見えてきたものは何か、数回に渡り、その道程を紹介する。